

## 4 第4版でランク外とした種について

以下のリストは、埼玉県レッドデータブック動物編の前版でレッドリストに挙げられた種のうち、本書でリストから外れた64種についての情報である。

No	分類群	科名	和名 ( )内は前版での和名	前版の ランク	環境省 RDB 2014・ 2015の ランク	ランク外とした理由
1	哺乳類	トガリネズミ科	ニホンジネズミ (ホンシュウジネズミ)	RT	-	県南部の雑木林や河川敷周辺の生息地は減少していると推定されるが、県北西部の低山帯から山地帯にかけては安定した個体数が維持されている。
2	哺乳類	モグラ科	ヒミズ (ホンシュウヒミズ)	RT	-	低地帯の生息地は減少していると推定されるが、低山帯よりも上部の地域に広く分布している。
3	哺乳類	ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ	NT1	-	採餌場所となる水辺と、ねぐらとして利用できるトンネル状の構造の両方がある環境では平野部にも生息していることが判明した。山地帯にはコロニーも発見された。
4	哺乳類	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ	VU	-	熊谷市内の上越新幹線の高架橋や秩父山地などで繁殖と越冬が確認され、個体数も非常に多いことが判明した。
5	哺乳類	オナガザル科	ニホンザル (ホンドザル)	RT	-	県北、西部への分布域の拡がりが見られ、個体数も増加していると判断した。
6	哺乳類	ウサギ科	ニホンノウサギ (キュウシュウノウサギ)	RT	-	平野部の残存林と河川敷では、時折、確認されることがある。これらの地域では個体数は多くないと考えられるが、丘陵帯よりも上部の地帯では個体数も多い。
7	哺乳類	リス科	ニホンリス	RT	-	丘陵帯以下の地域では絶滅したと考えられるが、低山帯よりも上部にある生息地では個体数も安定している。
8	哺乳類	ネズミ科	アカネズミ (ホンドアカネズミ)	RT	-	平野部の残存林と河川敷では個体数は多くないと考えられるが、丘陵帯よりも上部の地域では個体数も多く、安定した生息状況である。
9	哺乳類	ネズミ科	ヒメネズミ (ホンドヒメネズミ)	RT	-	森林に依存した種で、低山帯よりも上部の地帯に分布域がある。生息地に偏りはあるものの普通に見られる種である。
10	哺乳類	ネズミ科	カヤネズミ (ホンドカヤネズミ)	NT1,2	-	低地帯の河川敷や丘陵帯の谷戸などでは生息が局所的となっているため、絶滅が危惧される地域もあるが、県北西部の低山帯よりも上部にある谷戸やスキ、チガヤ群落周辺などでは広範囲に生息地があり個体数も安定している。環境選好性の幅は広くないと考えられるため、今後も継続して生息状況は注視すべき種である。

No	分類群	科名	和名 ( )内は前版での和名	前版の ランク	環境省 RDB 2014・ 2015の ランク	ランク外とした理由
11	哺乳類	イヌ科	タヌキ (ホンドタヌキ)	RT	-	低地帯では個体数は多くないと推定されるが、それ以外の地帯では個体数も多く、県内各地に広く分布している。
12	哺乳類	イヌ科	キツネ (ホンドキツネ)	RT	-	低地帯では絶滅に近い状況と推定されるが、河川敷や周辺の雑木林などで目撃されることがある。これらは、河川敷を移動経路として上流地域から侵入してくる個体と考えられる。山地帯よりも上部での生息状況は安定している。
13	哺乳類	イタチ科	テン (ホンドテン)	RT	-	もともと低地帯には生息しなかったと考えられる。低山帯よりも上部での生息状況は安定している。
14	哺乳類	イタチ科	イタチ (ホンドイタチ)	RT	-	低地帯でも河川や用水路周辺で生息痕が確認されることは稀ではない。全県に広く分布し、個体数も安定していると考えられる。
15	哺乳類	イタチ科	アナグマ (ニホンアナグマ)	RT	-	丘陵帯よりも上部の地帯では、各地で生息が確認されている。個体数も安定していると考えられる。
16	哺乳類	ウシ科	カモシカ (ニホンカモシカ)	RT	-	県北～西部で生息地の拡がりが見られ、個体数も安定していると考えられるが、ニホンジカとの競合により生息地を圧迫されているとの情報もあり、注視が必要である。
17	鳥類 (繁殖鳥)	サギ科	アオサギ	DD	-	繁殖地が県内各地にあり、個体数は増加傾向で生息状況は健全である。
18	鳥類 (繁殖鳥)	ヒタキ科	イソヒヨドリ	DD	-	海岸沿いに生息する種で過去に偶発的な繁殖がみられたが、近年県内各地から繁殖報告があり今後も記録が増えると思われる。
19	鳥類 (繁殖鳥)	エナガ科	エナガ	RT	-	EXとされていた低地帯での繁殖もみられ、生息状況は健全と判断できる。
20	鳥類 (繁殖鳥)	コウライウグイス科	コウライウグイス	DD	-	過去に繁殖記録があるが、一時的なものと判断される。
21	鳥類 (越冬鳥)	カモ科	アカハジロ	VU	DD	過去に越冬記録があるが、一時的なものと判断される。
22	鳥類 (越冬鳥)	タカ科	オジロワシ	CR	VU	過去に越冬記録があるが、一時的なものと判断される。
23	鳥類 (越冬鳥)	ツリスガラ科	ツリスガラ	VU	-	過去に越冬記録があるが、一時的なものと判断される。
24	爬虫類	イシガメ科	クサガメ	NT2	-	近年の研究により、明治以前西日本に移入され、関東では戦後に分布が広がった外来種とされる。
25	爬虫類	ヤモリ科	ニホンヤモリ	NT1,2	-	県内広域で普通に確認された。また近年の研究によると、外来起源の可能性が高い。

No	分類群	科名	和名 ( )内は前版での和名	前版の ランク	環境省 RDB 2014・ 2015の ランク	ランク外とした理由
26	魚類	コイ科	アカヒレタビラ	DD	EN	埼玉県に生息していた記録が見あたらない。埼玉県産魚類リストからも削除。
27	魚類	コイ科	マルタ	NT2	-	生息数は増加しており、1990年以前にも産卵時期には多くの遡上が見られた。
28	魚類	コイ科	シナイモツゴ	EX	CR	埼玉県に生息していた記録が見あたらない。埼玉県産魚類リストからも削除。
29	魚類	ドジョウ科	シマドジョウ	NT2	-	1990年以前から生息地、生息数に減少する傾向が見られない。
30	魚類	ギギ科	ギバチ	VU	VU	1990年以前から減少する傾向がみられない。
31	魚類	ナマズ科	ナマズ	NT2	-	2008年以前から減少する傾向がみられない。
32	魚類	アカザ科	アカザ	DD	VU	1980年代から漁獲され、それ以前の記録がないことから本来の生息地ではないと判断された。
33	魚類	シラウオ科	シラウオ	EN	-	1960年代以降隅田川では絶滅している。本県の河川に遡上することは希。
34	魚類	シラウオ科	イシカワシラウオ	DD	-	本来の生息地ではない。埼玉県産魚類リストからも削除。
35	魚類	サケ科	サケ	VU	-	他県から移植された系統が安定して遡上している。
36	魚類	サヨリ科	クルマサヨリ	DD	-	本県に定着する魚類ではない。
37	魚類	カジカ科	カジカ	NT2	NT	1990年以前から生息地での発生状況は安定している。
38	魚類	ボラ科	メナダ	DD	-	汽水魚で本来の生息場所ではない。埼玉県産魚類リストからも削除。
39	魚類	カワアナゴ科	カワアナゴ	VU	-	2005年以降採集記録があるが、それ以前の記録はないことから国内移入種の疑いがある。
40	魚類	ドンコ科	ドンコ	DD	-	採集記録はなく、国内移入種の疑いがある。
41	魚類	ハゼ科	ウキゴリ	DD	-	1990年代から減少する傾向はなく、増加している。
42	魚類	ハゼ科	エドハゼ	EN	VU	本来の生息地ではない。埼玉県産魚類リストからも削除。
43	魚類	ハゼ科	ビリンゴ	VU	-	本来の生息地ではない。
44	魚類	ハゼ科	ムサシノジュズカケハゼ	NT2	EN	1990年以前から広く分布し、生息数は増えている。
45	魚類	ハゼ科	スミウキゴリ	NT1	-	生息地および生息数は増えている。
46	魚類	ハゼ科	アシシロハゼ	NT1	-	1990年以前から生息数は減少していない。感潮域では捕獲数が最も多い魚種である。

No	分類群	科名	和名 ( )内は前版での和名	前版の ランク	環境省 RDB 2014・ 2015の ランク	ランク外とした理由
47	魚類	ハゼ科	ゴクラクハゼ	DD	-	本来の生息地ではない。埼玉県産魚類リストからも削除。
48	円口類	ヤツメウナギ科	カワヤツメ	DD	VU	本来の生息地ではない。
49	ハチ目	スズメバチ科	チャイロスズメバチ	VU	-	秩父地域や県西部の他、新たに東部や南部でも生息が確認された。
50	チョウ目 チョウ類	シジミチョウ科	ウラナミアカシジミ	VU	-	生息地が県内各地で発見された。
51	チョウ目 チョウ類	タテハチョウ科	コムラサキ	NT1	-	生息地が県内各地で発見された。
52	チョウ目 ガ類	シャチホコガ科	モンクロギンシャチホコ	LP	-	幼虫は栽培されているバラ科の植物も食草とし、県東部低地から西部の山地にかけて記録がある。近年、採集記録が増えている。
53	チョウ目 ガ類	ヤガ科	フシキキシタバ	NT	-	幼虫はブナ科のクヌギやアベマキの葉を食べる。県内各地で雑木林の保全活動が行われ、記録される個体数が増加している。
54	チョウ目 ガ類	ヤガ科	コトラガ	NT	-	幼虫はブドウ科のヤブガラシやヤマブドウの葉を食べる。県西部の山地帯に広く分布し、個体数は多くないが、各地で継続的に記録されている。
55	ハエ目	ハナアブ科	コブコシボソチビハナアブ	NT	-	分類学的研究が進み、本州の個体群は未記載種とされたため。
56	シリアゲムシ目	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ	LP	-	県下に健全な生息地が多く存在するため。
57	カメムシ目	アメンボ科	ハネナシアメンボ	NT	-	生息地が県内各地で発見され、個体数も多いことが判明した。
58	トンボ目	イトトンボ科	ホソミイトトンボ	CR+EN	-	2014年頃から比企丘陵を中心に急速に生息地が拡がり始め、越冬個体も多数が確認されている。個体数急増の原因は不明。
59	カゲロウ目	シロイロカゲロウ科	オオシロカゲロウ (アミメカゲロウ)	VU	-	大発生年と小規模発生年があるなど発生にはばらつきがあるが、毎年確認されている。
60	甲殻類	メクラヨコエビ科	ヤマトメナシヨコエビ	DD	-	井戸から発見される地下水種であり、調査対象から削除。
61	甲殻類	テナガエビ科	スジエビ	RT	-	1990年以前から減少する傾向はない。
62	甲殻類	テナガエビ科	テナガエビ	RT	-	1990年以前から減少する傾向はない。
63	甲殻類	イワガニ科	モクズガニ	NT2	-	1990年以前から減少する傾向はない。
64	クモ目	トタテグモ科	キシノウエトタテグモ	NT1	NT	最近の県内調査および近隣都県での生息情報から、植栽土による随伴移入と本来の生息地の区別がつかないため。